



図-8 水耕栽培によるトルコギキョウの栽培状況

が、徹底的に生育を促進する技術体系に学ぶことは多い。

トルコギキョウは土壤病害等の影響が大きく連作が困難である。オランダでは大苗を密植して根域を土壤の浅層に限定し、改植の度に蒸気による土壤消毒を行うことによって連作を可能にしている。我々は日本の市場ニーズにあった切り花を土壤消毒が不要な水耕栽培によって年3作する技術開発を行った(図-8)。高精度な計画生産は未達成であるが、品種の選定と白熱灯による開花促進、二酸化炭素施用等による光合成促進やパッドアンドファンおよびヒートポンプによる冷房、これ

らの複合環境制御技術によって周年生産が可能であることを実証した。今後も日本型の効率生産システムとして、切り花品質の季節間差の解消や計画生産の精度の向上のための技術開発を進める予定である。

参考文献

- 道園美茲ら 2010. 暗期開始時の短時間昇温処理によるアフリカンマリーゴールドの開花反応促進. 植物環境工学 22,8-14.
- 福田直子 2016. 「トルコギキョウ. 品種改良の日本史12章」. 柴田道夫編著, 悠書館, 東京, pp.289-312.
- 福田直子 2013. 「冬季の低コスト計画生産. 最新農業技術花き5」. 農文協, 東京, pp.71-82.
- 大川清ら 2003. 「栽培の基礎技術. 実践花き園芸技術トルコギキョウ」. 大川清編著, 誠文堂新光社, 東京, pp.132-229.
- 住友克彦ら 2009. 数種切り花類の開花およ

び茎伸長に及ぼす明期終了時の短時間遠赤色光照射 (EOD-FR) の影響. 花き研究所報告 9,1-11.

- 住友克彦 2014. トルコギキョウの光応答. 久松完編著「電照栽培の基礎と実践」, 誠文堂新光社, 東京, pp.119-127.
- 竹村圭弘ら 2014. 明期終了時の遠赤色光照射処理および昇温処理がトルコギキョウの生育に及ぼす影響. 園芸学研究 13, 255-260.
- 塚田晃久ら 1982. トルコギキョウの生理的特性と栽培に関する研究 (2). 長野県野菜花き試験場報告 2, 77-88.
- 塚田晃久ら 1986. トルコギキョウの生理的特性と栽培に関する研究 (3). 長野県野菜花き試験場報告 4, 43-54.
- Ushio, A. et al. 2014. Promotive Effect of CO2 Enrichment on Plant Growth and Flowering of *Eustoma grandiflorum* (Raf.) Shinn. under a Winter Culture Regime. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 83, 59-63.

田畑の草種

広葉風鈴 (酸漿・鬼灯・輝血) (ヒロハフウリンホオズキ)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

ナス科ホオズキ属のアメリカ原産の一年生帰化草本。畑地、芝地、荒地、道端など、痩せたところから肥沃なところまで土壤の種類を選ばずに生えてくる。草高30cmから1m、葉腋に1cmほどの杯状の淡黄色の花を単生し、熟すと1.5cmほどの球形の果実はホオズキ状の萼に包まれる。そのホオズキ状の萼が風鈴のように垂れ下がるから「フウリンホオズキ」と名づけられたとされるが、ホオズキ属のものはみな垂れ下がる。

ヒロハフウリンホオズキは熱帯アメリカ原産で、日本には江戸時代後期に持ち込まれたとされる。また、同属のホオズキは東アジア原産とされ、日本でも古くから栽培されてきた。

ホオズキの方は、江戸時代以降には日本各地で「鬼灯市」が開かれるほどに栽培され、平安の時代には薬用、食用、観賞用として栽培されていたようである。その赤らむホオズキ状の萼ゆえに、ふっくらとした色艶の美しいものの喩えにも使われ、

紫式部は源氏物語第28帖「野分」の中で、野分の吹き荒れた翌日、玉蔓の住まいで彼女を見て「酸漿などいふめるやうにふくらかにて、髪のかかれる隙々うつくしうおぼゆ」と言わしめ、「酸漿」が引き合いに出てくる。

ホオズキの古名を「輝血」とも「赤かがち」ともいう。古事記の中の須佐之男命の八俣遠呂智退治の段、足名椎が遠呂智の容貌を「その目は赤かがちのよう」と答える。真っ赤に、らんと輝く眼は、赤く熟れたホオズキを連想させるほどに万葉人にも印象的であったのであろう。

ヒロハフウリンホオズキも、風鈴状に垂れ下がる萼が真っ赤になれば、今ほどには嫌われていなかったかもしれない。いや、反対に、ダイズ畑に真っ赤な風鈴が下がり始めると、それを目印に根こそぎ抜き取られることになっていたのかもしれない。